（別添資料１）

事業所名　エミット大手前　　**支援プログラム**　　作成日　令和8 年 4 月 1 日

法人（事業所）理念		わくわくを社会に。感動から人生は変わる。			
支援方針		①自発性を重んじる療育：受け身にさせない子どもの自発性を重んじた療育を目指します。②楽しむことの出来る施設：子どもたちが来所日をワクワクして待ち望み、楽しんで来ることの出来る施設を目指します。③ご家族への充実したサポートを行う：送迎の際には保護者様より日常生活や療育などのことをお伺いします。また定期的にペアレント・トレーニング等も開催し、保護者様への充実した支援を目指します。④実行・効果のある支援を：来所することでことばが出るようになり、社会性が伸びるなど、実行効果（エビデンス）のある支援を行います。			
営業時間		9 時 30 分から 17 時 30 分まで		送迎実施の有無	なし
		支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	通所で生活リズムを整える。学習理論での身辺自立の促進。過敏性で行えない子には無理をさせないことで拗らせることを避ける。本人のペースに則っていくことを前提に、保護者へのケアも行っていく（周囲との比較、頑張りすぎることで疲弊し、拗らせてしまうケースがあるため）。			
	運動・感覚	過敏・鈍磨の人にはマッサージなどで感覚を整える。過敏・鈍磨が改善され、受容器としての皮膚刺激の範囲が広がっていくと、身体的な学習が出来やすくなっていく。模倣・逆模倣を行うことで、徐々に「上手い体の使い方」を学習する。微細運動、粗大運動の学習においても同様な形で模倣習得させる。			
	認知・行動	モチベーションをアップさせた上での認知や学習の支援。やり取りの中から本人の発達の具合によって考えていく。ブロック遊びなどは本人のしたいことを邪魔せずに提供し、模倣・逆模倣によって促進させる、不適応行動に関してはABAにて分化強化や代替行動、消去手続きも考える。適応行動を学習する際には強化子操作を行い、適宜適応行動を増やしていく。			
	言語 コミュニケーション	無発語の子には逆模倣での支援で発話、発語を促す。発声・発語の促しをせず、対人回避にならない様な自発性を尊重していく。当該の発声できた言語だけでなく、１つの単語を学ぶことで類似の単語２～５語を学ぶ（般化）ことが出来る様に、自発的な学習を作り出す。コミュニケーションに関しては、人の気を引きたいという活動を最大限に活用して、不適応な注意引きは適応的な関わりに持っていく様に、ABAの手続きによって学習させていく。			
	人間関係 社会性	モデリングによる社会的学習の促進。特に発達に遅れを持っている子どもは、人とのかかわりが嫌悪になりやすい傾向があるので、本人のペースを尊重するため、人との行動が嫌悪刺激にならず、回避・逃避行動を形成しない形での自発的な行動学習の提供を行っていく。			
家族支援		送り迎えの時間を活用し、ご家庭での様子を聞かせて頂いたり事業所での様子をお伝えする。定期的にペアレント・トレーニングを行っている。		移行支援	必要に応じて、通われている小学校・幼稚園・保育園などと連携をしていく（進級・進学など環境の変化に対応した支援など）。
地域支援・地域連携		法人での研修を外部の方にも参加を呼びかける。地域の自立支援協議会や社会福祉協議会や他事業所と連携をしていく。		職員の質の向上	法人全体での研修参加。OJT等を通じた質の向上。
主な行事等		ワンダーアワード（年1回）			